

A photograph of a forest in autumn. A large tree trunk is in the foreground, with a camera trap attached to it. The ground is covered in fallen leaves and dark volcanic rocks. The sky is visible through the trees, which have some red and orange foliage.

富士山南～東斜面における長期動物調査

2013年～2018年

平成31年 (2019年) 3月

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会

目次

はじめに	1
ニホンジカによる食害の状況	2～3
旧須山口周辺4箇所・16ヶ月の記録	4
出現の割合と月別の記録数	5
環境の異なる各区域の長期記録	6
センサーカメラによる長期動物調査 2014.12～2018.5	
設置場所別の記録割合	7
総記録数の割合	8
砂沢⑤(表紙写真)ニホンジカの季節変動記録	
センサーカメラ記録より	9

はじめに

富士山の森ではニホンジカによる食圧のため樹木の立ち枯れ、林床植物の減少などが急速に進んでいる。わたしたちは森の植物相を守ることを目的に静岡森林管理署、常葉大学と協力して天然林への植生保護柵の設置、母樹となる樹木への樹皮防護ネット掛けを続けている。これらの植物の保護活動と並行してニホンジカの活動を把握するため、センサーカメラによる調査を継続的に行なっている。この調査は富士山に生息する動物とニホンジカの活動の実態を明らかにし、森林の生物多様性保全に資することを目的とするものである。



ニホンジカによる食害の現状





旧須山口周辺4箇所・16ヶ月の記録

2013年11月、静岡森林管理署、常葉大学と協働で御殿場市印野地先国有林の天然林部分に植生保護柵を設置し、同時に柵の周辺部に動物調査センサーカメラを設置した。設置場所については動物学者今泉忠明氏に指導していただいた。



各柵の近く4箇所に設置



今泉忠明氏

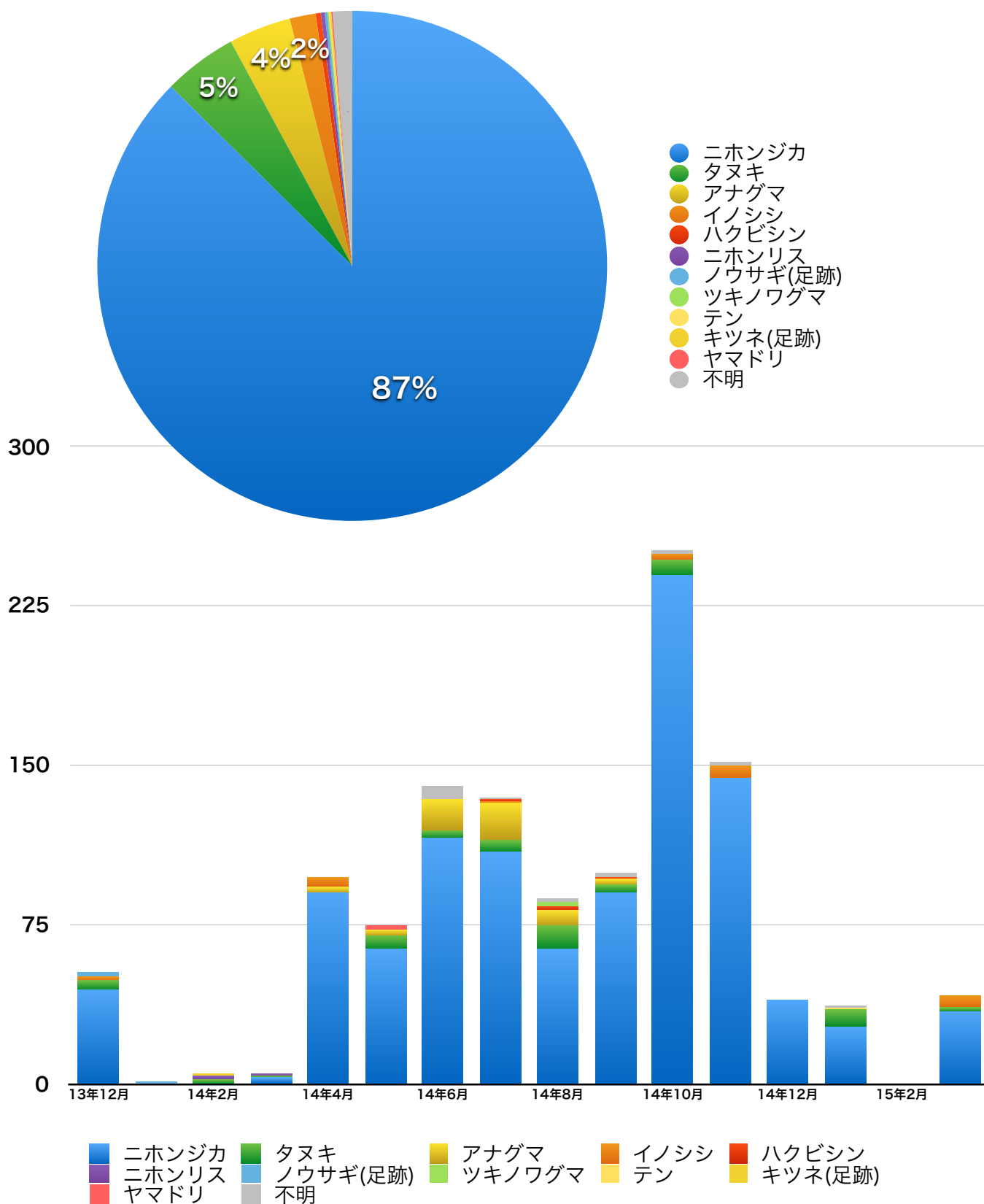


センサーカメラによる動物調査記録 2013.12~2015.3

	2013	2014												2015			計
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ニホンジカ	44	0	0	3	90	63	116	109	63	90	239	144	40	27	0	34	1062
タヌキ	5	0	2	1	0	7	3	6	11	4	8	0	0	8	0	2	57
アナグマ	0	0	0	0	3	3	15	17	8	2	0	0	0	0	0	0	48
イノシシ	2	0	0	0	4	0	0	1	0	0	2	6	0	0	0	5	20
ハクビシン	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	4
ニホンリス	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ノウサギ(足跡)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ツキノワグマ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
テン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
キツネ(足跡)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ヤマドリ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	0	0	0	0	0	0	6	1	2	2	2	1	0	1	0	0	15
合計	52	1	5	5	97	74	140	135	87	99	251	151	40	37	0	41	1215

出現の割合と月別の記録数

ニホンジカが記録されたカットは87%であったが、群れなど複数の個体が記録されているものが多く、数ではさらに高い割合になる。2014年1月～3月はニホンジカがほとんど記録されなかったが、2月に1m以上の積雪があり、ニホンジカが調査域で活動できなかったためと考えられる。ニホンジカは冬は標高が低い場所へ、夏はより高い場所へと移動していると思われる。



環境の異なる各区域の長期記録

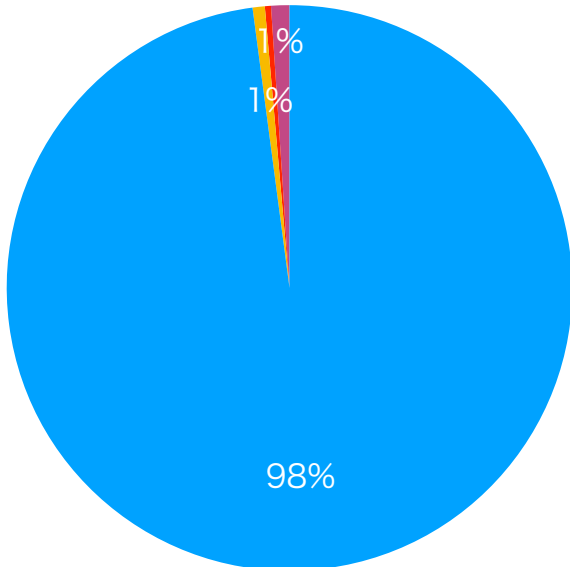


センサーカメラによる長期動物調査 2014.12～2018.5

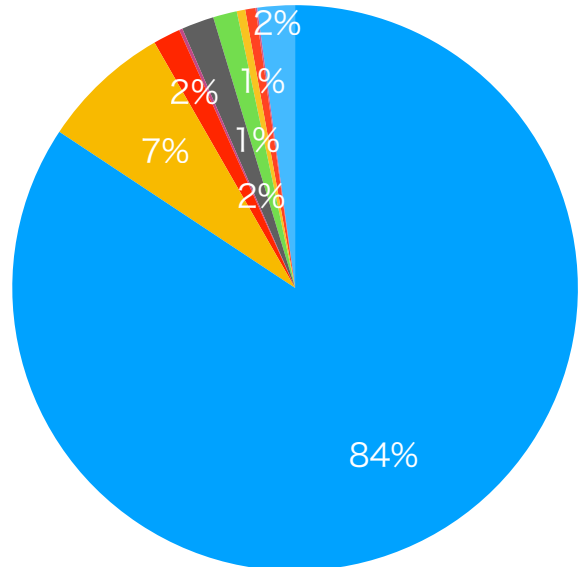
	① 草原 柵設置前	① 草原 柵設置後	② 新旧溶岩流 の境界	③ 水ヶ塚検丸 尾溶岩	④ 旧須山口 付近の混交林	⑤ 砂沢	計
期間	2014.12～ 2015.05	2016.11～ 2018.05	2014.12～ 2017.12	2014.12～ 2017.11	2015.12～ 2017.11	2015.05～ 2017.12	
月数	5	18	36	35	23	31	
ニホンジカ	281	865	91	117	655	1,799	3,808
ネズミ類			21	205			226
キツネ	2	76	1	3		30	112
鳥類	1	16	34	57		2	110
イノシシ	3	2	2		59	37	103
アナグマ		19	1		6	61	87
リス			46	9			55
タヌキ		14	11	2	6	3	36
テン		5	6	11		3	25
ノウサギ		6	9	2			17
ツキノワグマ		1	1		5	10	17
ハクビシン				3	1		4
不明		22	30	58	3	11	124
	287	1,026	253	467	735	1,956	4,724
数/1ヶ月	57.4	57	7	13.3	32	63.1	

設置場所別の記録割合

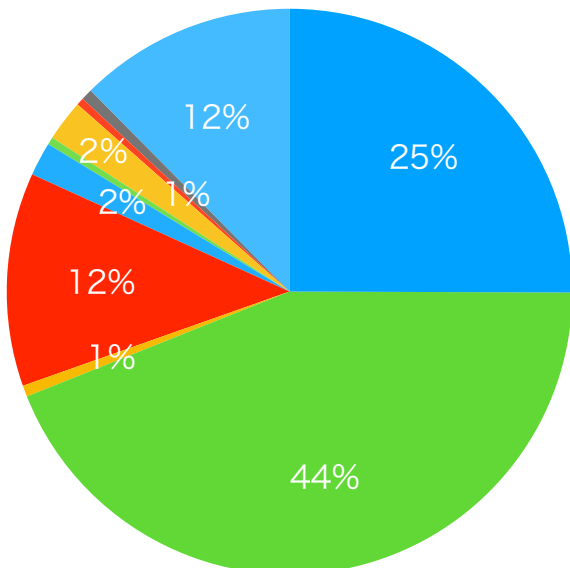
- ニホンジカ
- ネズミ類
- キツネ
- 鳥類
- イノシシ
- アナグマ
- リス
- タヌキ
- テン
- ノウサギ
- ツキノワグマ
- ハクビシン
- 不明



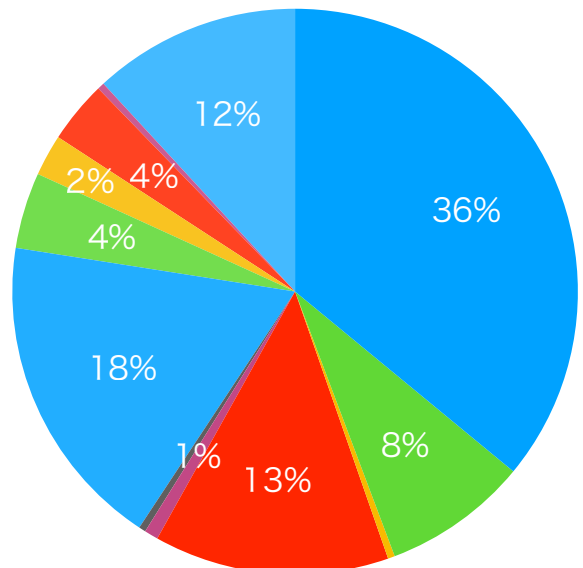
草原・柵設置前 5ヶ月 総数287



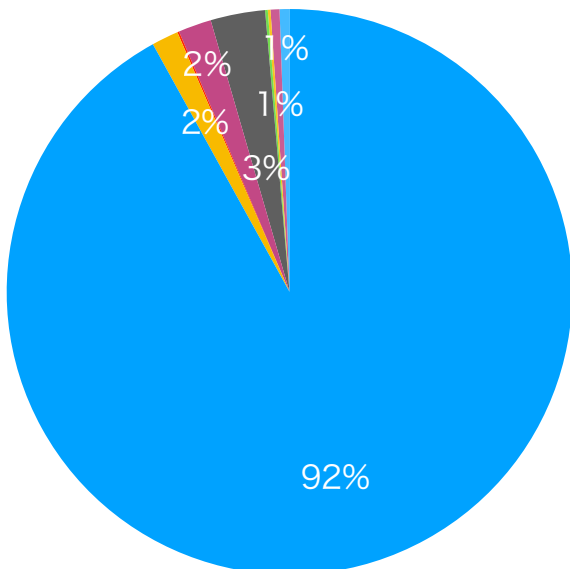
草原・柵設置後 18ヶ月 総数1026



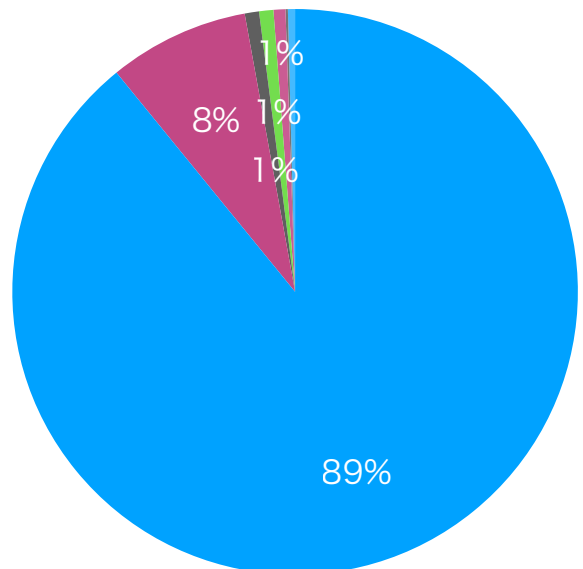
水ヶ塚松丸尾溶岩 35ヶ月 総数467



新旧溶岩流の境界 36ヶ月 総数253

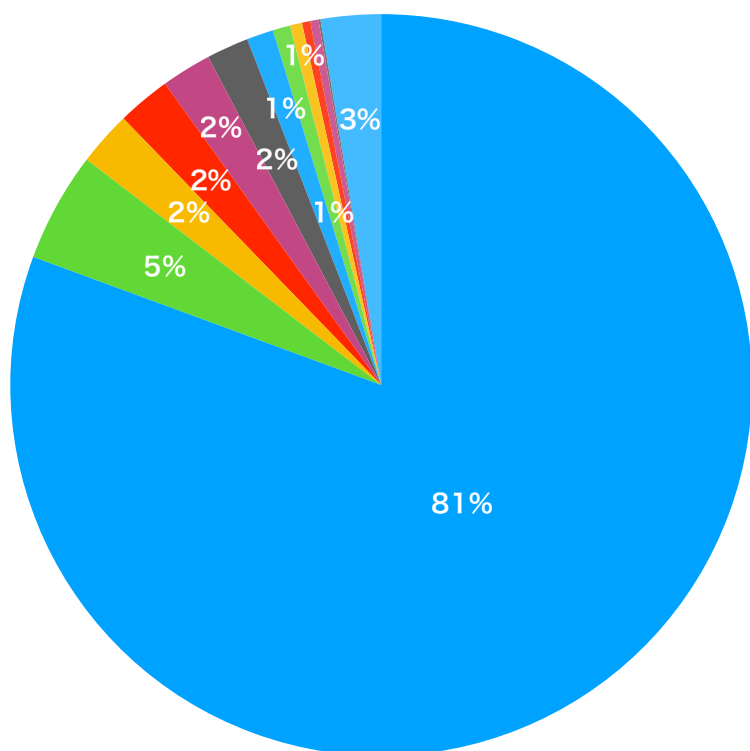


旧須山口付近の混交林 23ヶ月 総数735



砂沢 31ヶ月 総数1956

総記録数の割合



このグラフは写真・動画に記録された動物のカット数だが、植生保護柵設置前の草原では1カットに最大15頭のニホンジカが記録されたこともあり、ニホンジカ、イノシシなど、群れや集団で活動する動物の個体数の割合はさらに大きくなる。

溶岩流ではニホンジカが少なく、小動物、野鳥の割合が大きかった。野鳥はヤマドリ、アカハラ、ルリビタキ、カケスなどが多く記録された。

ネズミ類は地面に近い位置に設置した溶岩流のカメラに記録されたものなので、参考記録としたい。現在(2019年3月)、ネズミ類専用で改造したカメラで試験撮影を行なっている。

ニホンジカ 3808	アナグマ 87	ツキノワグマ 17
ネズミ類 226	リス 55	ハクビシン 4
キツネ 112	タヌキ 36	不明 124
鳥類 110	テン 25	
イノシシ 103	ノウサギ 17	

砂沢 ⑤ (表紙写真) ニホンジカの季節変動記録

300

沢を横断する動物の記録からニホンジカを抜粋したものである。
各年共に冬季と夏季に減少し、秋に最多を記録した。
P5の旧須山口周辺4箇所・16ヶ月の記録と同様の結果となった。

225

150

75

0



センサーカメラ記録より



ニホンジカ



イノシシ



キツネ



ツキノワグマ



テン



タヌキ



アナグマ



ノウサギ



ヤマドリ



リス

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会
〒412-0006 静岡県御殿場市中畑1691-14
TEL 0550-89-6905 FAX0550-73-0434
ホームページ <http://hosigarasu.org>
Eメール info@hosigarasu.org